

令和 5 年 4 月 26 日現在

機関番号：32677

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23188

研究課題名(和文)政治過程・経済政策における意思決定問題とその集計

研究課題名(英文) Decision-making issues and their aggregation in political process and economic policy

研究代表者

笠松 怜史 (Kasamatsu, Satoshi)

武蔵大学・経済学部・専任講師

研究者番号：50848364

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題を通して、行動経済学及びゲーム理論を用いた(1)政治的信頼の動学と利益団体政治の関係性及び(2)議会政治における野党の反対とアカウンタビリティの関係性について明らかにした。(1)では、政治不信と利益団体政治の相互作用はどのような政治不信の通時的变化をもたらすかを分析した。結果としては、「政治的信頼のサイクル」が発生する環境が存在することを示した。(2)では、野党の法案への賛否が有権者にとってinformativeであったとしても、賛否そのものがチープトークである限り、与党の統制(アカウンタビリティ)に資さないことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、ポピュリズムや陰謀論などに代表されるような政治現象が目目されてきている。その原因の一つとして政治信頼の低下や野党の価値が目目されている。本研究では、政治的信頼と汚職の関係性と長期動学に関する性質及び野党の議会における行動(法案への賛否)が有権者の投票行動に与える影響という、上記の政治現象を考えるうえで重要な基礎研究を行った。この議論を積み上げることで、上記の政治現象の理論的解明とその社会厚生的問題点について解明されることが期待される。

研究成果の概要(英文)：Through this research project, we use behavioral economics and game theory to clarify (1) the relationship between the dynamics of political trust and interest group politics and (2) the relationship between opposition and accountability in parliamentary politics. In (1), we analyzed how the interaction between political distrust and interest group politics leads to diachronic changes in political distrust. The results showed that there is an environment in which a cycle of political trust occurs. In (2), we showed that even if the opposition party's approval or disapproval of a bill is informative to voters, it does not contribute to the ruling party's accountability as long as the approval or disapproval itself is cheap talk.

研究分野：Political Economics

キーワード：政治的信頼 チープトーク 利益団体 汚職

1. 研究開始当初の背景

申請者の研究及び先行研究では、キャンペーン戦略の中でもネガティブキャンペーンに注目し、その情報伝達の可能性を探った。[Kasamatsu and Kishishita (2017)] 政治家のキャンペーンにおける代表的な理論研究である Prat(2002, RES)の(1)候補者ではなく背後の利益団体が Credible なシグナルを送ることができ、(2)情報伝達においては、キャンペーン内容ではなくキャンペーンに投資した資源量が重要であり、(3)有権者はすべて合理的であるという特徴に対して、申請者の研究では (1)候補者が Credible なシグナルを送ることができ、(2)情報伝達において、キャンペーン内容が重要な役割を果たすこと、(3)候補者が Credible なシグナルを送るためには非合理的な有権者が重要であるという 3 つの異なる結果を示した。また(3)については情報を送るとき、一見すると不要と考えられる非合理性が重要になってくるという点に独創性がある。しかし、このようなネガティブキャンペーンは有権者に情報を伝える可能性がある一方、有権者の偏見や反感などを誘発し、世論形成に負の影響を与える可能性も考えられる。特に 2016 年アメリカ大統領選挙における両候補者のネガティブキャンペーンは、世論の分断を生み、自身がどの候補者を支持しているのかを公言するのをためらうサイレントボーターが多く発生した。その結果、事前の世論調査から推測された大統領選の結果と実際の選挙結果は大きく乖離することとなった。(政木(2017)) つまり、このようなネガティブキャンペーンの Behavioral な側面は世論形成及び社会厚生にそのような影響をもたらすのか、そしてそのような状況の下での世論調査はどこまで信ぴょう性があるのかという問題が浮かび上がる。故に申請者は上記の事例から、世論調査の適切な設計及びネガティブキャンペーンの行動経済的振舞いを加味した理論研究をこれからの研究課題とした。

参考文献：

Kasamatsu, Satoshi and Daiki, Kishishita, Informative Campaigning in Multidimensional Politics: A Role of Naive Voters. SSRN Working Paper, 2017.

Prat, A. (2002a). Campaign advertising and voter welfare. *The Review of Economic Studies*, 69(4), 999-1017.

政木みき(2017). 米大統領選挙で世論調査は"外れた"のか ~ アメリカ世論調査協会の報告から ~, 放送研究と調査 2017 年 9 月号.

2. 研究の目的

申請者の研究目的は(1)「既存の世論調査手法がなぜ国民の選好を正しく調査できていないか」を実験的に考察すること、(2)世論調査と選挙結果が乖離する一因として考えられるネガティブキャンペーンなどの政治行動に関する Behavioral な側面を理論的に分析することによって有権者及び候補者にとって望ましい政治行動とは何かを特定することである。

3. 研究の方法

本研究成果では主に上記の研究目的(2)である、ゲーム理論及び行動経済学を用いた選挙・政治過程における政治家及び有権者の行動に関する理論研究である。

4. 研究成果

本研究期間において、様々な研究成果が得られた。以下、中心成果について解説する。

1. Kasamatsu, S, & Daiki Kishishita. (2020). Endogenous Political Trust and Electoral Accountability. SSRN working paper.

本研究では、政治的信頼の内生的変化が代表民主制のパフォーマンスにどのような影響を与えるかを検証する。本研究ではそのために、有権者が政治家のタイプ分布に関する不確実性と個々の政治家のタイプに関する不確実性に直面する 2 期間選挙モデルを構築する。このような信頼の不確実性により、政治的信頼は時間と共に内生的に変化することを示した。それにより、現職の行動は、政治的信頼の変化を通じて挑戦者の価値に波及効果をもたらすことが分かった。このメカニズムから、信頼の不確実性が選挙における説明責任を弱めることが判明した。さらに、このメカニズムは、high-accountability な均衡と low-accountability な均衡が共存するという、複数の自己充足的な均衡を生み出すことを示した。民主化を短期間経験した国々では、信頼の不確実性は深刻である。我々の結果は、民主主義のパフォーマンスが低くなる傾向があること、また、同じような国であっても、このような新しい民主主義国家では、パフォーマンスレベルが異なることを示している。

2. Kasamatsu, S, & Daiki Kishishita. (2021). Does Informative Opposition Influence Electoral Accountability? SSRN working paper.

多数決制度を採用する議会では、少数政党は政策決定に直接影響を与えることはできない。しかし、少数政党は、多数政党の有害な政策立案に対する内部告発者としての役割を果たすことができる。本研究は、少数政党の監視が、多数派議会における political Agency Problem を緩和するかどうかを調べることを目的である。そのために、有権者が各政党のタイプや政治環境に関する情報の非対称性に直面する 2 期間選挙モデルを構築する。多数党の政策決定後、少数党はその政策決定に反対するかどうかについてのチープトークメッセージを決定する。少数政党による監視は、たとえその政党が真実を語るタイプである可能性を許容したとしても、有用ではないことを示した。少数政党の最初の人気が高すぎない限り、その反対は有益であるが、有権者の投票行動を変えることはない。その結果、選挙のアカウントビリティは全く改善しないことが分かった。このような監視の無関係性は、少数政党が妨害などを通じて政策決定に直接影響を与えることができる場合に解消されることも併せて示した。

3. Kasamatsu, S, & Daiki Kishishita. (2021). Dynamic Dilemma of Political Trust. SSRN working paper.

金権政治が政治的信頼を損なうことは議論されているが、政治的信頼が金権政治にどのような影響を与えるかについてはほとんど知られていない。本研究では、まず、2人の候補者が政策を提案し、利益団体が各候補者のキャンペーン量を決定するという静的な選挙競争モデルを構築する。そして、高い政治的信頼があれば、利益団体が選挙で政治家を取り込むことができることを示した。このメカニズムに基づき、政治的信頼が将来の民主主義的パフォーマンスを損なう一方で、過去の高いパフォーマンスを指し示すという、政治的信頼の動的ジレンマを明らかにした。静的モデルを short-lived プレーヤー（すなわち、各プレーヤーは 1 つの期間しか生きられない）を持つ動的モデルに拡張することで、有権者と利益団体の間の政策選好のずれが深刻な場合、この動的ジレンマが政治的信頼と金権政治の内生的サイクルを生み出すことを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 54(4)
2. 論文標題 Tax competition and political agency problems	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Canadian Journal of Economics/Revue canadienne d'economique	6. 最初と最後の頁 1782-1810
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/caje.12569	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 34
2. 論文標題 Informative campaigning in multidimensional politics: The role of naive voters	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Theoretical Politics	6. 最初と最後の頁 78～106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/09516298211061153	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Kasamatsu, Taku Masuda and Hikaru Ogawa	4. 巻 76
2. 論文標題 A citizen candidate model of tax competition with interdependent preferences	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FinanzArchiv/Public Finance Analysis	6. 最初と最後の頁 313-328
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1628/fa-2020-0011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Ogawa Hikaru	4. 巻 22
2. 論文標題 International capital market and repeated tax competition	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Public Economic Theory	6. 最初と最後の頁 751-768
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jpet.12417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 -
2. 論文標題 Endogenous Political Trust and Electoral Accountability	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.3518289	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 -
2. 論文標題 Does Informative Opposition Influence Electoral Accountability?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.3880904	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 -
2. 論文標題 Dynamic Dilemma of Political Trust	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.3914509	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasamatsu Satoshi, Kishishita Daiki	4. 巻 -
2. 論文標題 Strategic Misinformation: The Role of Heterogeneous Confirmation Bias	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4273759	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 笠松 怜史、須佐 大樹
2. 発表標題 Endogenous Timing of Elections under Tax Competition
3. 学会等名 2021年度日本経済学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠松 怜史、岸下 大樹
2. 発表標題 Collective Reputation and Learning in Political Agency Problems
3. 学会等名 2020年度日本経済学会春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠松 怜史, 益田 拓, 小川光
2. 発表標題 Globalization and attitude toward a neighboring country: Tax competition approach
3. 学会等名 2019年度日本経済学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠松 怜史, 岸下 大樹
2. 発表標題 Strategic Misinformation: The Role of Heterogenous Confirmation Bias
3. 学会等名 2022年度日本公共選択学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------